

事業名：公募校
学校名：尾道市立御調中学校
所在地：尾道市御調町高尾93番地
HP：http://www.onomichi.ed.jp/mitsugi-j/
学校規模：8学級 226名

1 研究の概要

(1) 研究のテーマ及び研究のねらい

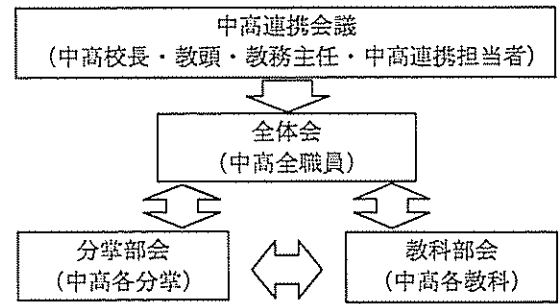
①研究テーマ

「連携型中高一貫教育の中で自ら学ぼうとする姿勢、態度を育成する指導の在り方」
 — 学力の定着・向上に向けて —

②研究のねらい

本校と県立御調高等学校における6年間の中高一貫教育を通し、自ら考え、自らの責任において物事に対していく自立した学習者を育成する。
 連携型中高一貫教育校として、それぞれの発達段階でつきたい力を明確にし、6年間というスパンで教育内容をつくり、確かな学力と豊かな人間性をそなえた若者を育て、中等教育の完成として、生徒の夢と志を実現させることを目標とする。

(2) 研究組織・体制



(3) 研究内容

①基礎学力の定着と学力の向上

ア習熟度別少人数授業の展開
 個々の生徒の力を伸ばすことを目的とした4展開の授業を実施する。
 イ自由研究型の「総合的な学習の時間(まなびのとびら)」
 課題解決能力の育成を目的とした生徒一人一研究を実施する。

②特色ある教育活動

ア基礎学力診断テストと基礎学力診断カルテ
 各自の学習課題を明確にし、課題に応じた学習をすることで、学力の定着・向上を図る。
 イ30時間学習マラソン
 積極的に学習に取り組む姿勢・態度を育成し、各自の学習課題を克服するために実施する。

2 授業改善の視点

(1) 基礎学力の定着と学力の向上

①習熟度別少人数授業の展開

高校教員の乗り入れにより、3年生の国語、数学、英語において、発展、標準Ⅰ、標準Ⅱ、基礎に4展開する習熟度別少人数指導を行い、クラス別に目標を設定したワークシート等を活用し、それぞれの生徒の力を伸ばすことを目標とした授業を実施する。

②自由研究型の「総合的な学習の時間(まなびのとびら)」

生徒一人一人が研究課題を設定し、探求し、課題解決を図る「総合的な学習の時間」へとカリキュラムを変更し、学習や生活において生かす力をつける。
 ・3年生の研究発表を聞き、研究課題を設定する
 ・ゲストティーチャーの招聘による個別指導
 ・パソコン機器の充実を図った学習環境の整備
 ・12部門に細分化し、より専門的なレポートの作成
 ・中高合同発表会の実施

(2) 特色ある教育活動

①基礎学力診断テストと基礎学力診断カルテ

中学校3年生、高等学校1年生を対象に基礎学力診断テストのカルテを作成し、各自の学習課題を明確にし、各自の学力に応じた学習を行わせ、家庭での学習習慣を定着させる。

また、中高の教務、教科でデータを共有し、授業改善に活かす。

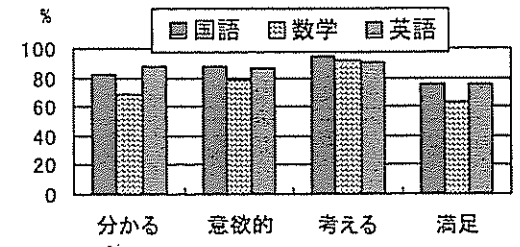
②30時間学習マラソン

「生徒自らに学習計画を立てさせ、やりきらせることにより、学校・家庭での学習習慣を身に付け、積極的に学習に取り組む姿勢・態度を育成する。」ことを目的に、8月上旬の5日間、実施する。

3 研究の成果と課題等

(1) 成果

①習熟度別少人数授業の展開に係る生徒アンケート



3教科の発展クラスでは、高校の先生に高校の内容を先取りして教えてもらえるので、満足度が80%を超えている。他のクラスでも自分の力に合い、分かりやすいと感じる生徒が70%を超えている。

②「総合的な学習の時間（まなびのとびら）」

課題解決能力の育成を目的とした、生徒一人一研究の実施により、自ら学ぼうとする姿勢が身に付き、教科担当者への質問・相談回数、積極的な発表・質問が増加するなど、課題解決に向け意欲が高まった。

③30 時間学習マラソン

30 時間の目標に対して、全生徒の学習時間の平均は 27 時間であったが、「自分で計画を立て、やりきる」という目標の達成度は 90% であった。3 年生は、御調高等学校で実施し、高校生の黙々と学習する姿に刺激を受けた。

(2) 課題

①学習意欲等のさらなる向上

数学について、「基礎・基本」定着状況調査の通過率は、平成 17 年度 63.4% が平成 18 年度には 68.9% と上昇しているが、生徒アンケートでは、分かる 68%、満足しているが 63% と高くはない。生徒が満足できるような習熟度別少人数指導の工夫が必要である。

②授業改善

中学校 1、2 年生に対し、基礎学力診断テストやカルテを活用した指導方法の工夫改善が十分でない。3 年間を見通した系統的な指導が必要である。

(3) 今後の改善点や方策等

①自立した学習者の育成

中高連携会議等で、生徒が将来への展望を切り拓いていける力を育成するための、取組みを一層進める。また、個々の生徒に応じた家庭学習の仕方を手引きをもとに指導するなど、基礎学力の定着と学力向上の取組みを推進し、高い学習意欲を持った、自立した学習者の育成を図る。

②御調地域における保・小・中・高の連携

保・小・中・高の 14 年間を見通して、自ら学ぼうとする姿勢、態度を育成し、学力の定着・向上を図るため、御調地域全体での連携を深める。

4 実践事例

(1) 3 年・英語・習熟度別 4 展開授業

(2) 単元の紹介

①単元名 Cell Phones - For or Against?

②単元の目標

ア 自分の立場を明確にし、理由を論理的に述べることができるようにする。

イ 現在分詞と過去分詞を用いた後置修飾、間接疑問文を理解し運用できるようにする。「議論する」という実践的コミュニケーション能力を養う。

③指導計画

第 1 次：後置修飾の文構造、間接疑問文の理解、英語での議論について学ぶ。

第 2 次：英語で議論するときの表現を学ぶ。

第 3 次：単語熟語テスト、期末試験

(3) 授業改善のポイント

①指導方法の工夫

習熟度別クラスの目標を立て、指導する。

- ・発展クラス：現在分詞、過去分詞の形容詞的用法を学習する。
- ・標準Ⅰクラス：現在分詞と過去分詞を用いた後置修飾を学ぶ。
- ・標準Ⅱクラス：ゲームや絵本等も活用しながら後置修飾の定着を図る。
- ・基礎クラス：現在進行形、受け身を復習しながら後置修飾を理解させる。

②教材の工夫

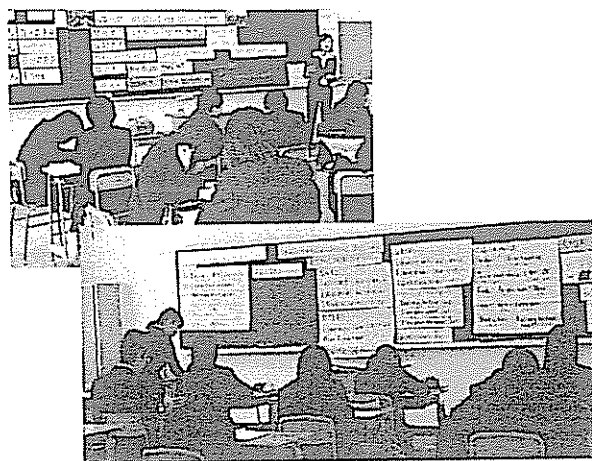
各習熟度別クラス用のワークシートを準備し、記入することで、論点をはっきりし、論議が進められるように工夫した。

③評価の工夫

自己評価の記入だけでなく、他の生徒の良かった点も記入させることで、自他を認めあう評価にした。

(4) 授業の様子

論議の練習場面では、どのクラスも、積極的にペア練習ができた。また、全体の前での論議も恥ずかしがることなく行い、活気のある授業展開となった。



(5) 成果と課題

それぞれの習熟度に適した教材・指導法を準備することで、生徒が生き生きと授業に参加でき、その授業に対して満足感をもって授業を終えられた。

しかし、期末試験では、予想したほど定着しておらず、ワークシート等のさらなる工夫が必要である。